

具体的には、「読み・書き・算」など、学習の基盤となる技能や、各教科への興味・関心、自分から進んで学ぼうとする「学習への構え」など、発達の段階に応じた確実に身に付けることができるよう、計画に基づき、評価や結果を踏まえ、より分かりやすい授業となるよう取り組んでいます。



里中学校区【幼・小・中合同運動会】

本市では、令和3年度から、学力向上をテーマとした小中一貫教育に取り組むことになりました。新たなねらい、「課題を共有し、子どもも教員も学びを実感することができる」を追加し、授業を通して「何ができるようになったか」を実感できる授業づくりの実践を始めています。

「学びの実感」を重視  
小中一貫教育の  
新たな取り組み



祁答院中学校区【前期・後期交流】



平成中学校区【平成フェスタ】

小中一貫教育の新たなねらいの背景には、本市の市民憲章があります。「心がかよふ」ことで、課題を共有することができ、学力の確実な定着に向けて、「分かった」「できた」など、子どもも教員も学びを実感することを重視しています。

また、どんな状況下においても、子どもたちが安心感を持てるように、次のような関わりが大切であると考えています。

「視線を合わせて」「声を掛け合い」「笑顔で接すること」で子どもや教員が「心をかよわせ」、共に学ぶ喜びを味わい、九年間の学びが途切れないような取り組みを、全ての中学校区において、一丸となって推進していきます。

未来を担う  
子どもたちの  
夢の実現のために

本市児童生徒の学力

問合先／本庁学校教育課指導G(内線 5341)



「学力向上」  
「生きる力」の育成

学習指導要領では、学んだことが、明日、そして将来につながるように「生きる力」を育むことが求められています。子どもたちは、自分の夢や社会貢献のために、学校での授業や体験を通して学習を積み上げ、考えたり表現したりする力や、そのために必要な知識や技能などの学力を身に付けます。

各学校では、自分から学ぶ態度の育成や分かりやすい授業、家庭学習の充実など、計画に基づき、評価や結果を踏まえ、学力向上に取り組んでいます。

今回は、各種学力調査の分析と、本市の学力向上の取り組みの一部を紹介いたします。

各種調査結果から

鹿児島学習定着度調査

対象／小学5年生、中学1・2年生  
教科／小学校4教科、中学校5教科  
時期／毎年1月  
分析／特に小学校の社会と中学校の数学において、基礎・基本を確実に定着させる必要があります。

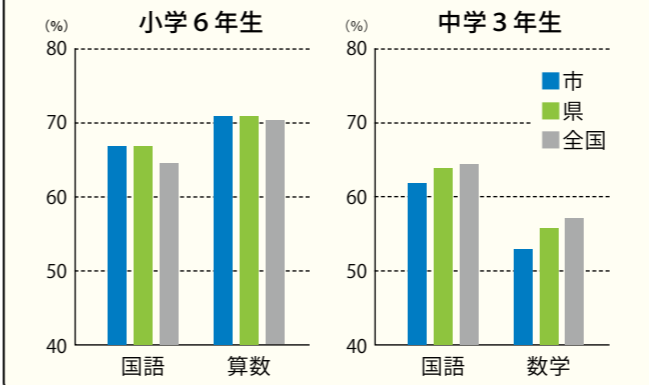
標準学力検査(NRT)  
対象／小学2年生、中学3年生  
時期／毎年4月  
分析／アンダーアチバー(本来持っている能力に対して、学力の定着が十分でない児童生徒)が2割弱います。

全国学力・学習状況調査

対象／小学6年生、中学3年生  
教科／国語、算数、数学  
時期／今年度は5月(例年4月)  
分析／小学校は、国語・算数共に全国の平均を上回りました。中学校は、国語・数学共に全国平均に届かなかったものの、前回(令和元年度)と比べると学力は伸びています。

一方、間違った問題の傾向を分析すると、国語は、文章を読み取る読解力に、算数、数学は、計算などの基礎・基本の定着や、速さや一人分当たりの量を求める問題などを確実に定着させる必要があります。

【全国学力調査の平均正答率】



「学級経営の充実」  
学習状況調査

本市では、令和2年度から、「学級経営の充実」を基盤とした学力向上に取り組んでいます。

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学力向上を図っていくためには、安心して学べる環境が整っている必要があります。

安心して学べる環境が整うためには、学級経営を充実させ、子ども「先生・友達に認められている」、「自分には良いところがある」という自己有用感を高めることが大切です。



今回の学習状況調査では、「学校に行くのは楽しい」と感じている児童生徒の割合が約9割と、全国よりも高くなっています。

今後も、教育委員会と学校が連携を図り、子どもたちの自分の夢の実現のために、学力向上の取り組みを推進していきます。

【小中一貫教育イメージ図(令和3年度～)】

